



野外では国際色豊かな16グループからの歌唱、楽器演奏、民族舞踊、ポップダンスなどの披露があり、会場からは歓声が上がった。

野外では国際色豊かな16グループからの歌唱、楽器演奏、民族舞踊、ポップダンスなどの披露があり、会場からは歓声が上がった。また、規模を縮小して行った野外のプログラムでは各国の料理や物品販売、ステージでは楽器演奏や華やかなダンスなどが披露された。この日を待ちわびていた参加者たちの顔からは笑みがこぼれた。

26回目を迎えたこのエキシメニカルな集いは、毎年「外国人が暮らしやすい社会は、日本人にも暮らしやすい」というスローガンを掲げている。イベントの主催者である「外国人住民基本法の制定を求める全国

### 第19回教区典礼研修会 新しいミサ曲を学ぶ

10月23日(日)14時から、第19回大阪教区典礼研修会がサクラファミリアで行われた。講師はカトリック中央協議会典礼委員会秘書の宮越俊光氏。

オルガニストの三浦優子さんの協力のもと、3年ぶりの公開での開催に定員を上回る約120人の参加があった。コロナ禍でさまざまな制限のあるミサが続く中、一日も早く新しいミサ曲をおささげしたいという強い気持ちを参加者から感じた。

2022年の待降節第一主日から使用が開始されたばかりの『新しいミサの式次第』の経緯や基本方針の説明を受けたのち、同時に発表されたミサの新しい4つの賛歌として用意されたA・B・C3つの旋律の違いの説明を受けた。共同体ごとどの旋律を使ってもよいが、大阪教区ミサでは原則として「ミサの賛歌A」を使用するので、今回はAの歌唱指導をお願いし、参加者全員で練習した。

「ミサの賛歌A」の4つの賛歌のメロディは、いずれも「Kyriele」というグレゴリオ賛歌のミサ通常式文集の旋律をもとに作られたそうで、楽譜には音符の棒や旗がなく、白黒のたま(譜頭)だけの楽譜となっている。これは音符の長さ厳密に縛られることなく歌詞(祈り)を丁寧に歌うための配慮であり、テンポもそれぞれの共同体が歌いやすいようにすればよいそうだ。しかし、周りの人とより心をひとつにして歌うことが必要であるように思えた。

後半では、いわゆる「歌ミサ」の旋律が紹介され、A・B・Cの3種類用意されたうちの「式次第A」を皆で歌ってみた。こちらは、信徒はもちろん司式司祭の練習も必要と思われるので、時間をかけて作り上げられていくのだろう。順次公開されている新たなミサ曲の楽譜については、『典礼聖歌集』の補巻の

コロナ感染症対策のため、ミサへの参加はやむを得ず、大阪北・南地区と外国人共同体に限定し、事前に整理券を配布。エドガル司教の司教叙階後、大阪教

区での初めてのミサということもあり、聖堂は喜びに包まれた。エドガル司教はミサ説教で、第一朗読の中でイスラエルの民の勝利のために手

を挙げ続けて祈るモーセを横で支えていた人に言及(出エジプト記17・12参照)。International Dayでキリストの体として集う私たちは互いのために祈り、支え合おうと呼びかけられた。また、モーセと同じように、十字架の上で両手を伸ばすキリストの勝利に信頼を置き、より大きなものを与えてくださる神に祈り続ける大切さを語られた。

また、規模を縮小して行った野外のプログラムでは各国の料理や物品販売、ステージでは楽器演奏や華やかなダンスなどが披露された。この日を待ちわびていた参加者たちの顔からは笑みがこぼれた。



キリスト教連絡協議会」は、「共に生き、共に生かし合う社会」の実現に向けて！実現するまで毎年署名(今年度分は2023年1月10日まで)をステージに立つて参加者に呼びかけた。

大阪教区には多くの外国人が在籍しており、司牧の観点から言語別にミサを行っている。「International Day」とは外国人の集まりのように見えるが、本来は決してそうではない。私たちが同じ神の民として教会に集っていることを認識することである。年に一度この日を祝うのではなく、毎週の主日のミサが「International Day」だと意識して交流できるようにするのが理想だ。

移住者が少ない小教区もあり、地区やブロックとして交わる機会があれば良いといった声もある。世界中のすべての人に開かれた社会にするためには、ともに生きる私たちが国籍を越えた出会いと交わりを大切に、差別や排除のない社会の実現を目指したい。

実行委員会  
International Day

講演の動画はこちら  
  
<http://osaka.liturgy.jp>

## INTERNATIONAL DAY 2022 祈りを支えてくれる人



12  
2022

発行所  
大阪府中央区玉造2-24-22  
カトリック大阪大司教区  
広報委員会  
郵便番号 540-0004  
TEL (06) 6941-9700(代表)  
TEL (06) 6946-3223(直通)  
FAX (06) 6946-3224(直通)  
E-mail: jiho@osaka.catholic.jp  
編集 広報委員会  
発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」あります。〈無料〉  
※ご希望の場合は下記まで申込み  
「点訳版(点字本)」  
時報 ☎06-6946-3223(直通)  
☎06-6946-3224(直通)  
「音訳(テープ・ディジー)」  
山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 地区養成チーム代表者会議 (2画)
- ☆ ラジオ「信仰の時間」戸村晴美 (3画)
- ☆ 青年と子どもたちの錬成会 (4画)
- ☆ 司牧者から若者たちへこの一冊 (4画)
- ☆ シナピス・センター長のメッセージ (5画)
- ☆ 世界平和に向けて祈り続ける (6画)
- ☆ 聞かせたくない神さまと出会った時のこと (6画)
- ☆ カチキムの学び (7画)
- ☆ 生きろー難民移住者 (7画)

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

### 教区本部事務局 職員募集

福音宣教に協力し、一緒に働いてくださる職員を募集します。

【職務内容】 一般事務  
【歓迎するスキル・経験】  
ワード・エクセル・語学などが堪能な方

【待遇】 当法人規程による/社会保険等有

【採用時期】 要相談  
【試用期間】 3ヶ月

【応募方法】 12月23(金)までに履歴書を郵送ください。選考は書類審査の後、面談を予定しています。

【問合せ】 TEL:06-6941-9700(閑蔵)  
(平日のみ午前9時~午後5時)

### 新コラム投稿募集 (800字程度+写真1枚)

①か②のお題を1つ選び、『大阪カトリック時報』宛にお名前、所属教会、連絡先記載の上、メール・郵送・FAXのいずれかでご応募ください。

①「わたしの教会のいいところ」  
所属教会のお宝・自慢できるところを紹介

②「ちょっとイイ話」  
教会や家など身近にあった心温まるエピソード紹介